子どもの読書活動について

佐久間　儀一郎

〔質問〕本市の「子ども読書活動推進計画」は期間の3分の1を消化するが、これまでの活動の実態、成果、今後の課題、環境整備等は行政の責任分野であると思うが、計画策定時に実施したアンケートの学校図書室の事務職員や、専任の司書教諭が一人もいない件、学校ボランティアについても一部の学校だけ等。

また、老朽化した移動図書館「こまくさ号」の更新が緊急かつ重要なテーマである等ご意見への対応。学校図書室の蔵書を充実させるとともに人的体制づくり、読書活動の推進環境の核的役割を果たしている移動図書館車の更新に取り組む計画があるか伺う。

〔答弁〕【教育長】幼児期の読書習慣が重要と考え、「白石市子ども読書活動推進計画」を策定した。

これにもとづき、読書機会の確保のため、毎朝10分程度を読書の時間とした結果、落ち着いた雰囲気の中で1時間目の授業に入ることができて、豊かな心につながるという評価がある。

また、ノーテレビ・ノーゲームデーにより家庭において読書活動に取り組んだところ、児童生徒とも83％ぐらいが読書が好き、どちらかといえば好きだというところまで成果として上がっている。

司書がいるかいないかで子どもたちの図書の利用が違うという結果もある。12学級以上になると司書教諭を配置することが法律で決まっているので、大きな学校には司書教諭がいるが、小さい学校にはいない。

よって、教育委員会では、図書ボランティアを募集し、資格を問わず、本の読み聞かせ、本の修理や貸し出しのお手伝いをお願いしてきた。

また、「こまくさ号※」の老朽化が進んでいるので、今後の大きな課題として、市長部局と相談をしながら進めたい。

※移動図書館車購入を含む、平成20年度一般会計補正予算が3月19日開催の第378回臨時会で可決されました。

市の将来のあり方について

志村　新一郎

〔質問〕昨年の白石市長選挙に当選され、2期目の市政が執行されている。

昨年12月定例会において、2期目の政策と市政運営について述べられたが、10年先、20年先の白石市の姿をどのように描いておられるのか。

市長という立場は、我々市民の行く道を決定する重要な立場にある。その意味において、市長の意見、そしてその思いは、我々白石市民の道しるべとなるべきものでなければならないと思われる。

白石市の将来のあり方について市長の所見を伺いたい。

○その他の質問

道路整備について　他

〔答弁〕【市長】ここ数年、地方自治体を取り巻く環境は財政的に厳しい状況にある。

このような状況において、本市の目指すまちづくりの基本は市民の安全・安心であると再確認しており、とりわけ市民の命にかかわる地域医療の安定と雇用を創出する企業誘致であると考えている。

本市の将来のあり方については、現在の第4次総合計画は、平成22年度が最終年度となり、平成21年度から、第5次総合計画の策定に着手しようとしている。

策定に当たっては、市民のアンケート調査や意見をしっかり聞かせていただいて、ニーズを十分踏まえ、計画に反映させていきたい。

計画に掲げた政策の実施については、特化した政策を行っていると、今日のような目まぐるしい社会変化、経済環境においてリスクを伴い大きなダメージを受ける可能性があることから、その時期の社会環境に適応した政策を最優先に重点化して取り組むことが必要だと思っている。

白石市が持つ地域の素材を生かした調和のとれた白石市、そして人材の育つ白石市をつくってまいりたい。